

## 総合計画審議会会長賞

題名 「津山はあいさつの発信地」

学校名 津山市立成名小学校

学年 第6学年

氏名 保田千代 (やすだちよ)

津山はあいさつの発信地

十年後の津山は、どうなっているのだろうか。決めつけることはできないが今からならどんどん良くしていけると思う。

交通などの発達も大事だが、私はもっと大切なことがあると思う。「あいさつ」だ。聞こえなくて返せないときもあるけれど、わざとに無視する人もいる。聞こえていなくて返せなかったのも申し訳ないが、分かっているから返さないのは、それより何倍も失礼だと思う。

思う。あいさつをした方は気分が悪くなり、周りの人まで暗くなる。朝のあいさつによってその日の気分が変わってくる。だから明るい津山をつくるには、気持ちの良い「あいさつ」が必要なのだ。全員があいさつをするにはどうすれば良いのだろうか。

一人一人ができることを考えてみた。高学年の私たちが下級生にあいさつをすること、全校はあいさつが習慣になる。そして近所の大人の人達にあいさつをしていくことで、津

山市はあいさつと笑顔であふれる。そして津山市全体にあいさつが広がることで、津山市は、あいさつ日本一になる。こんなに上手くはいかないかもしれないが、あいさつをする  
と笑顔で返す」ということをあたりまえにしたい。いろいろな場所で人々の笑顔があふれている明るい津山市にしていきたい。他の町の人が来ても、その人には津山で楽しく過ごしてもらえと思う。

私は、十年後の津山が、笑顔でいっぱい町の町であってほしい。そのためにはあいさつが必要である。その日の気分を良くしてくれたり、周りの空気を明るくしてくれたりするあいさつは、とても大きいものだと思う。これから十年間は一人一人があいさつをすることを大切にしていき、十年後には、津山市が「あいさつの発信地」になれるようにしたい。